

「【500人に聞く】第18回
“今どきの新聞事情”に関する調査」ダイジェスト
“大多数の支持を得ているが新たな課題も明らかに”
月刊『アイ・エム・プレス』 Vol.160(9月号)誌上で公開!

株式会社アイ・エム・プレスは、月刊『アイ・エム・プレス』に連載中の「500人に聞く」シリーズ(調査主体:(株)アイ・エム・プレス 調査協力:(株)マーシュ)の第18回として今どきの新聞事情について調査を行いました。本リリースでは、同調査結果のダイジェストをお送りします。

なお本調査は、2009年8月25日に弊社が発行いたしました、月刊『アイ・エム・プレス』Vol.160(9月号)に結果全文を掲載しております。月刊『アイ・エム・プレス』Vol.160の詳細は、<http://www.im-press.jp/magazine/> から。



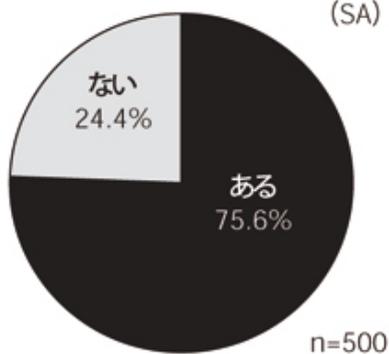
< 調査の概要 >

調査期間: 2009年7月13日～15日
調査対象: 全国における20～69歳の男女
調査方法: インターネットリサーチ((株)マーシュ調べ)
サンプル数: 500

< 調査結果紹介 >

国内外の新聞が大変革期を迎えていると言われている。特に欧米では、ロサンゼルスタイムズなど複数の有力紙を発行していた米国の大手新聞社シカゴ・トリビューンなどの破綻が相次ぎ、安易に電子化するリスクや極端な広告収入依存体質の問題が指摘されている。欧米に比べれば日本の新聞社の収益構造は安定しているようだが、新聞の印刷を外注するケースが散見されるほか、他社との協業も盛んに行われるなど、変革の時期にあることは疑いようもない。特に、携帯電話会社やテレビ局との提携、インターネットサイトの買収など、クロスメディア化への体制固めが加速している。そんな中、昔ながらの紙媒体である新聞は生活者の目にどのように映っているのだろう。本調査は20～60代男女500人を対象に実施した。

【図表1】定期的に読んでいる新聞はありますか?
(SA)



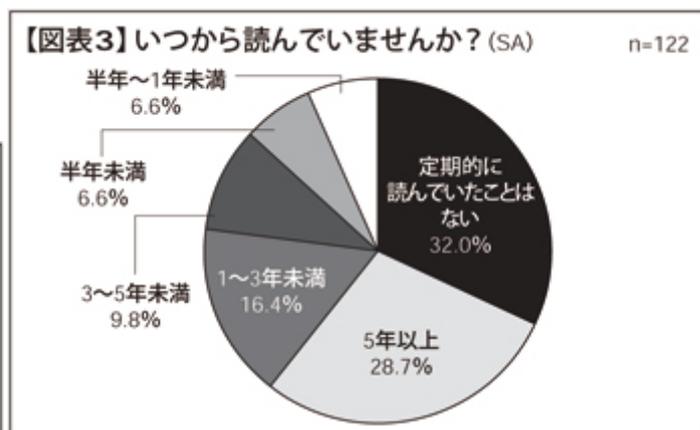
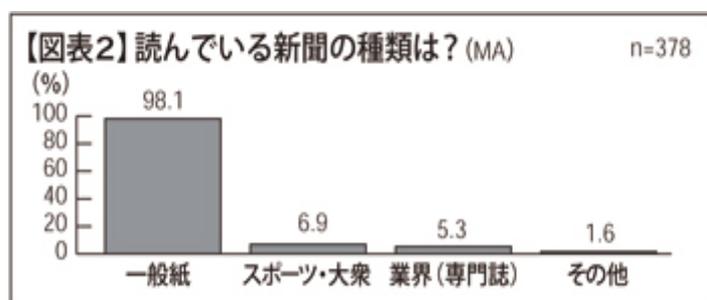
大多数が読んでいるが、若年層の新聞離れが明確に

まず定期的に読んでいる新聞はあるかを聞いたのが、図表1である。「ある」が75.6%を占め、回答者の4人に3人が定期的に何らかの新聞を読んでいた(以下、定期購読者と呼ぶ)。

年代ごとに見てみると、最も定期購読率が高いのは60代の91.0%。以下、50代が85.0%、40代が73.0%、30代が72.0%、そして20代が最も低い57.0%であった。やはり危惧した通り、年代が下がるほど定期購読率も低くなっていた。これは、新聞社の安定経営を揺るがす事態と言えるだろう。

定期購読者に読んでいる新聞の種類を聞いた結果が図表2である。断トツは98.1%の「一般紙」で、30～60代の男性と20代・50代の女性では100%であった。やはり特定の情報に偏らず、あらゆるジャンルの情報を網羅している一般紙は強いことがわかる。

設問1で定期的に新聞を読んでいないと回答した人（以下、非定期購読者と呼ぶ）に、いつから読んでいないのかを聞いた結果が図表3である。最も多かったのが「定期的に読んでいたことはない」の32.0%で、次が「5年以上」の28.7%であった。これに「3～5年未満」を加えた“長期不読組”が7割以上を占めるが、気になるのはここ3年以内に読まなくなった人が3割近くおり、またここ1年以内に限っても13.2%が購読を止めたこと。残念ながら本調査ではその理由まで明らかでないが、新聞業界にとって重要な問題であるのは確かなことと言えよう。・・・（以下続く）



同調査のさらなる情報は以下のサイトへ！

500人に聞く・第1回～第17回バックナンバーも満載！

「アイ・エム・プレス」Webサイトはこちら！

<http://www.im-press.jp/index.html>

インターネットが企業と生活者、そして企業と企業をつなぐ時代。従来からの競合の概念は大きく変化し、顧客主導型経営の重要性が叫ばれています。月刊『アイ・エム・プレス』では、このような“変革の時代”に勝ち残るための顧客づくりのヒントを、年間定期購読システムによりお届けしております。

< 株式会社アイ・エム・プレス >

代表取締役社長： 西村道子 / 設立： 1989年10月19日

業務内容： 出版、セミナー企画、調査、編集

〒113-0033 東京都文京区本郷2-3-6 聖台ビル5F

TEL：03-3815-8991 / FAX：03-3815-8957

URL：http://www.im-press.jp/

< 本リリースに関する問い合わせ先 >

(株)アイ・エム・プレス 編集部/販売促進 までお気軽にお問い合わせください。

TEL/FAX/URL： 同上